

# 矢作川流域圏懇談会「第4回 海部会WG」 アクセス改善調査 開催報告

～ 豊穰の海 三河湾の水辺と人の絆の再生・創造を目指して ～

## 1. 実施概要

### (1)実施概要

- 実施日時：平成24年8月12日(日)  
10:00～17:00
- 集合場所：一色さかな広場
- 調査場所：矢作川流域圏海地域沿岸一帯  
(矢作川河口部～東幡豆)
- 参加者：17名(事務局含む)

### (2)内容【プログラム】

- 1) 一色さかな広場集合
- 2) 矢作川河口部右岸(碧南市側)
- 3) 矢作川河口部左岸(西尾市側)
- 4) 人工干潟(おさかな広場西側)
- 5) 一色衣崎海岸
- 6) (経由) 矢作古川河口部・吉田海岸
- 7) 吉良歴史民俗資料館
- 8) 吉良ワイキキビーチ
- 9) (経由) 寺部海岸
- 10) 東幡豆漁港
- 11) 一色さかな広場解散



調査参加者



調査風景

## 2. 調査結果の概要

### ○主な調査結果

- ・夏場の調査につき、利用者は全般的に多く水辺の魅力を感じる多くの人の存在を認識できた。
- 矢作川河口部では、水上バイクなどの水面利用等の利用客で賑わいがあった。
- 人工干潟は、周辺整備がきれいに進み観光客も多いが干潟に入れない状態であった。
- 一色海岸は、海水浴には適さず人の姿は少ないが鳥類観察などの利用があることが分かった。
- 矢作古川では、子連れの釣り客が多く見られた。
- 吉良ワイキキビーチは、宿泊施設などが近くにあり、海水浴場や釣り客で賑わいがあった。
- 東幡豆海岸のかぼちゃ寺前の砂浜では、水遊びや水上バイクの利用で賑わいがあった。

### ○今後の課題と対応(案)

- ・今回の調査では、活かされていない魅力の向上の課題として、潮干狩りオフシーズンの海岸の利用がされていない(物理的にできない)点が発見できた。部分的な利用解放区を設定し、買い物のついでに水辺のふれあい機会を創出するような仕組みの検討が重要である。
- ・調査の運営課題としては参加者が調査目的を理解しづらい反省から、調査名を「海の魅力向上による絆再生・強化」調査として、夏場だけでなく干潟の魅力の発見へと展開が必要。

## (1) 調査目的

かつて人々の暮らしと海とは現代よりも密接な関係にあり、海から恵みを得る一方で災害時の影響も大きいという良くも悪くも暮らしに近い存在であった。

本調査は、希薄になった現代の暮らしと海との関係を取り戻すことを目指す「豊穡の海、三河湾の水辺と人のきずなを取り戻す取り組み」の最初の調査として矢作川流域圏の海地域一帯を視察した。

調査は、水辺の利用が多い時期に現在の水辺の魅力（利用状況）や生活拠点と水辺・干潟との関わり等について視察を行い、改善課題の発見を目的に実施した。

(※なお、アクセス調査とは、単に物理的な移動しづらさだけでなく、水辺の利用や干潟への関心を向上させ、市民を振り向かせるための様々な観点から問題発見を目指すものとした。)

## (2) 調査概要

- ・調査前日の西三河地域は、東海道新幹線が止るほどの豪雨に見舞われたが、調査日当日は夏らしい晴天に恵まれた。
- ・当日は、潮回りが悪く残念ながら広大な干潟を観察できなかったが、天気の良いさに恵まれ夏の矢作川河口部でのウィンドサーフィンや水上バイク等の水面利用、海水浴や釣り等のレジャー利用、鳥類の様子など様々な干潟、水辺の魅力を観察できた。
- ・また、農業生産の向上を図るための干拓、現代の暮らしを支える発電所や下水処理場などための埋立てによる干潟の喪失、塩田の操業の撤退など、暮らしとの距離が如何に生まれてきたかの変遷についても一部の状況を確認できた。

### 【調査区間の西側の地域（矢作川河口部～矢作古川付近）】 ※調査結果一覧参照

- ・干拓や塩田利用、養鰻場等へと歴史的な沿岸部の土地利用の変遷があり、沿岸部には生活拠点が少なく水辺へのアクセスは車による移動が必須である。
- ・そのため、駐車場所が確保できることや水辺へアクセスするスロープがあることが、アクセスの物理的な条件になっている。

### 【調査区間の東側（吉良ワイキキビーチ～東幡豆海岸付近）】 ※調査結果一覧参照

- ・変化に富んだ海岸線を持つ生活拠点と海との距離が近い地域であり、観光拠点を持つエリアとしても充実した施設整備が行われ発展してきた。
- ・また、東幡豆地区では、いかだレース会場の海浜利用の解放や長く設定された潮干狩り期間などからも、地域の資源を地元だけに留めず観光客（交流人口）を受け入れ、生業とする土壌が育ってきた側面があると考えられる。

### (3) 調査の総評・考察

調査の結果、水辺、干潟には十分に人びとを惹きつける魅力が十分にあることが分かった。

また、干潟・水辺は個人の責任において利用されているが、子どもの利用を考えたときには必ずしも安全な場所だけでないため、階段やスロープなどの物理的な接続性を向上すると事故を増やす可能性もある。そのため、全ての干潟、水辺を同じように整備するのではなく場所の特性にあった目指すべき方向を打ち出していくことが必要と考える。

#### 【利用の魅力】：魅力を高めるポイント

【海水浴】 : 安心、便利、総合性（遊ぶ、食べる、泊まる）

【釣 り】 : 駐車場所や魚影の濃さ（豊かな自然）、食べる楽しみ

【水面利用】 : 駐車場所やスロープ整備、利便施設



【干潟（鳥類観察）】 : 干潟・水辺だけでなく背後地の餌場等の保全

【干潟（その他利用）】：採る楽しみ、食べる楽しみ（別途、干潮時の調査が必要）

今後は、①魅力が活かされていない箇所（(例：人工干潟など利用の季節が限定される場所)）の運用改善、②海と市民の暮らしが距離的にも密接なエリア（例：東幡豆地区など）をモデル地区に市民と海と絆を深めるために必要な要素を学ぶとともに、他の地区での展開方法を検討することなどで、三河湾の水辺と人のきずなを取り戻す取り組みへと発展させていきたい。

水辺、干潟のアクセス調査結果一覧表（1/3）

調査範囲	矢作川河口部～西尾市沿岸部	天候	晴れ・曇り・雨	参加者	井上祥一郎、松井賢子、石原洋輔、鈴木陽子、高橋伸夫、野田賢司、片山正樹、杉山彦二、平山輝義、倉島佐貴夫、包原勝則、村越宗司、谷村光一、鷹野弘行、岡田泰祐
調査日	2012.8.12（日）	潮汐	長潮 干潮 7:51 87 20:23 147 満潮 15:10 174（衣浦）		

調査地点番号		調査地点①	調査地点②	調査地点③
地点名		矢作川河口部右岸	矢作川河口部左岸	人工干潟（一色さかな広場西側海岸）
調査方法		現地視察	現地視察	現地視察
①調査地点の魅力 (利用目的)	A 水面	水上バイク・スキー、小型漁船（船外機）係留	水上バイク・スキー、ウインドサーフィン、ボート・水遊び 定置網（ウナギなど魚漁）	アサリ養殖中
	B 干潟水辺	水上バイク・スキー、小型漁船（船外機）係留	水上バイク・スキー、ウインドサーフィン、ボート・水遊び 定置網（ウナギなど魚漁）	—
	C 河川敷	駐車、仮設日除けテントで休憩・食事	駐車、仮設日除けテントで休憩・食事、自転車	散策（散歩）、アオサ干し
	D 堤防等	—	駐車、仮設日除けテントで休憩・食事、自転車	—
	E 堤内地	農業（野菜）	農業（畑作、水田）	—
②アクセス性について	1)車を停めやすい	5 停めやすい	5 停めやすい	5 停めやすい
	2)目的の利用場所まで	5 近い	5 近い	5 近い
	3)目的の利用場所まで	5 歩きやすい	4 やや歩きやすい	5 歩きやすい
	4)歩きやすい理由	堤防から河川敷に降りる所が整備され、川に入る場所も設定されている。	堤防から河川敷に降りる所が整備され、川に入る場所も設定されている。	階段やスロープ、歩道が整備されている
	5)歩きにくい理由	—	—	—
③市民に親しんでもらえる水辺・干潟とする為に必要と感じたもの	活動利用の範囲・日時、利用マナーを設定し、守って頂くこと。監視。	活動利用の範囲・日時、利用マナーを設定し、守って頂くこと。監視。	一般の人に干潟に親しんでいただける箇所も若干設定する。	
③調査位置図				
調査結果の考察	スロープ整備箇所では、水面利用者等で賑わいが見られる。堤防の流末側は、季節によって混雑するため駐車場の確保に課題がある。漁業権がなく自由に利用できる反面、水辺や干潟へのアクセスに危険な箇所もあり、初めて訪れる方の危険を減らすための利用の心得などの整理と情報発信が望ましい。	スロープ整備では、水面利用者等で賑わいが見られる。多くの利用者があるにも関わらず、これまでゴミ等の問題がおきていないということで、自分たちの利用するフィールドをきれいに保ちたいとした結果と考えられ、他の場所も同様の利用が進むことが望ましい。	海岸公園や人工干潟の整備が進み、観光客も多い場所であるが、公園や干潟の散策などに十分に人が回遊していない状況で、進入防止柵（網）の撤去、一部、通年で遊べる解放区域の設定など干潟に親しむ仕組みを関係者等と検討するのが望ましい。	

水辺、干潟のアクセス調査結果一覧表（2/3）

調査範囲	矢作川河口部～西尾市沿岸部	天候	晴れ・曇り・雨	参加者	井上祥一郎、松井賢子、石原洋輔、鈴木陽子、高橋伸夫、野田賢司、片山正樹、杉山彦二、平山輝義、倉島佐貴夫、包原勝則、村越宗司、谷村光一、鷹野弘行、岡田泰祐
調査日	2012.8.12（日）	潮汐	長潮 干潮 7:51 87 20:23 147 満潮 15:10 174（衣浦）		

調査地点番号	調査地点④		調査地点⑤		調査地点⑥	
地点名	一色衣崎海岸		矢作古川河口部		吉田海岸沿岸	
調査方法	現地視察		車中より観察		車中より観察	
①調査地点の魅力 (利用目的)	A 水面	アサリ養殖・漁	小型漁船（船外機）係留場		アサリ養殖・漁	
	B 干潟水辺	—	干潮時：貝採り（ヤマトシジミ）、水遊び		—	
	C 河川敷	駐車、遊び（花火）、ランニング・散歩（散歩）	釣り、漁業仕事の通路、生活道路		—	
	D 堤防等	駐車、遊び（花火）、ランニング・散歩（散歩）	釣り、漁業仕事の通路、生活道路		漁業仕事の通路、散歩（散歩）	
	E 堤内地	農業地域（畑作、牧草地、畜産）	—		農地（畑作、畜産、施設園芸）、住宅、公共施設	
②アクセス性について	1)車を止めやすい	5 止めやすい	1 止めにくい		1 止めにくい	
	2)目的の利用場所まで	5 近い	2 やや遠い		1 遠い	
	3)目的の利用場所まで	5 歩きやすい	2 やや歩きにくい		1 歩きにくい	
	4)歩きやすい理由	堤防の勾配が緩く歩きやすい	—		—	
	5)歩きにくい理由	—	・水辺への階段やスロープ、歩道が整備されていない		・階段やスロープ、歩道が整備されていない ・立入が禁止・制限されている	
③市民に親しんでもらえる水辺・干潟とする為に必要と感じたもの	利用施設（水場、トイレ、あずま屋(日陰)等）		・車が止めやすいこと（転回のしやすさ） ・利用施設（水場、トイレ、あずま屋(日陰)等） ・水辺、干潟へ近づきやすい階段・スロープ等		・車が止めやすいこと ・水辺、干潟へ近づきやすい階段・スロープ等	
③調査位置図						
調査結果の考察	<p>干潮時の干潟利用（魅力）の発見が必要。堤防の後背地は、畑や養鰻場であり、生活拠点との距離がある。夏場の利用者は少なくゴミも目立つことから、潮干狩りシーズン以外にも様々な利用者を増やし、きれいに保ちたい空間として意識づけすることが重要。</p>		<p>コンクリート堤防が防潮を兼ねて高く、河川敷が運搬通路になっている。子ども連れの釣り客に人気があるのは、河川敷へのスロープがあり、釣りのポイントの側まで車両進入できることから荷物の横持ちが必要ない点にあると考えられる。地域の清掃等の活動をより多くの市民へ展開することが課題。</p>		<p>干潮時の干潟利用（魅力）の発見が必要。内陸の干拓地は旧塩田地域で、現在は農地、住宅地、公共施設等に変わっている。堤防上が狭く、一般訪問者の駐車スペースが無いことから、駐車場が確保されると良い。</p>	

水辺、干潟のアクセス調査結果一覧表（3/3）

調査範囲	矢作川河口部～西尾市沿岸部	天候	晴れ・曇り・雨	参加者	井上祥一郎、松井賢子、石原洋輔、鈴木陽子、高橋伸夫、野田賢司、片山正樹、杉山彦二、平山輝義、倉島佐貴夫、包原勝則、村越宗司、谷村光一、鷹野弘行、岡田泰祐
調査日	2012.8.12（日）	潮汐	長潮 干潮 7:51 87 20:23 147 満潮 15:10 174（衣浦）		

調査地点番号		調査地点⑦	調査地点⑧
地点名		吉良ワイキキビーチ（宮崎海岸・恵比寿海岸）	東幡豆沿岸部
調査方法		現地視察	現地視察
①調査地点の魅力 （利用目的）	A 水面	水上バイク・スキー、ボート等水上スポーツ	漁船等通行、水上バイク
	B 干潟水辺	人工砂浜：遊泳、釣り場：釣り	水遊び、貝採り（潮干狩り）、【遊泳禁止】
	C 河川敷	—	—
	D 堤防等	人工砂浜：遊泳、釣り場：釣り	漁港、水揚げ・選荷場、漁協、住宅、寺院等
	E 堤内地	駐車場、公園（野外活動広場付）	漁港、水揚げ・選荷場、漁協、住宅、寺院等
②アクセス性について	1)車を停めやすい	5 停めやすい	2 やや停めにくい
	2)目的の利用場所まで	5 近い	2 やや遠い
	3)目的の利用場所まで	5 歩きやすい	4 やや歩きやすい
	4)歩きやすい理由	階段やスロープ、歩道が整備されている	海岸端で平地である。
	5)歩きにくい理由	—	—
③市民に親しんでもらえる水辺・干潟とする為に必要と感じたもの		自然性の修復	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車が停めやすいこと</li> <li>・利用施設（水場、トイレ、あずま屋(日陰)等)</li> <li>・日常生活と調和し、自然性・生物多様性を重視した海岸整備</li> </ul>
③調査位置図			
調査結果の考察		夏場の観光地として十分な集客があり、施設も十分に整備されている。海水浴場として、サメ避けネットや監視員を配置することで、来訪者がより安全に利用できる工夫がある。	景観に優れた浜辺は地域に開放された浜として、人々の暮らしと海との距離が近い優良なモデルである。伝統と生物多様性豊かな海辺・干潟等の里海の再生のモデル地域の一つとして整備・検討（里山～海岸の環境総合学習拠点、自然観察・体験サイト）が望ましい。

#### (4) 各調査地点の利用実態や魅力、課題等

各調査地点において、参加者から紹介された意見や視察の結果を元に整理しました。

##### 調査地点①：矢作川河口部右岸（碧南市側）

- ・調査日当日は潮が高く潮干狩りをしている人達は見られなかったが、春の大潮の干潮時などは車を停める場所がないほど、アサリを採る利用者が多い。
- ・駐車場所からは、ガードレールを跨ぎ、堤防に掛けられた私設の木製階段等で堤防上まで出ることができる。
- ・堤防上から水際へは階段が整備されている。
- ・河口部の浅場干潟は、深みがところどころにあり、子どもが遊ぶには危険である。
- ・干拓事業に伴う堤防は農林水産省が管理し、発電所周辺は中部電力が管理しているため、堤防先端までは車でアクセスできない。
- ・釣り人は、車を停めて折りたたみ自転車にて、釣果のある堤防の先端まで移動している。
- ・発電所の温排水の影響で排水口周辺では、タイなどの釣果がある。
- ・碧南市側に漁業権が設定されていない理由は、かつて矢作川河口部には発電所等のための河口堰事業の計画があり、碧南市側は早くに補償を受け漁業権を放棄したため右岸では漁業権がなく、潮干狩りシーズンには、多くの市民が訪れるポイントとなる。
- ・干拓地では、人参などの根菜類の生産が有名である。
- ・かつて干潟の広がっていた時代には、シギチドリ類の生息場所として非常に有名な場所であったが現在はほとんど見られなくなってしまった。
- ・また、たんとぴあ（発電所内）の緑地に見られる鳥はカラスやその他山鳥で、海鳥と生息場所は競合する関係にある。



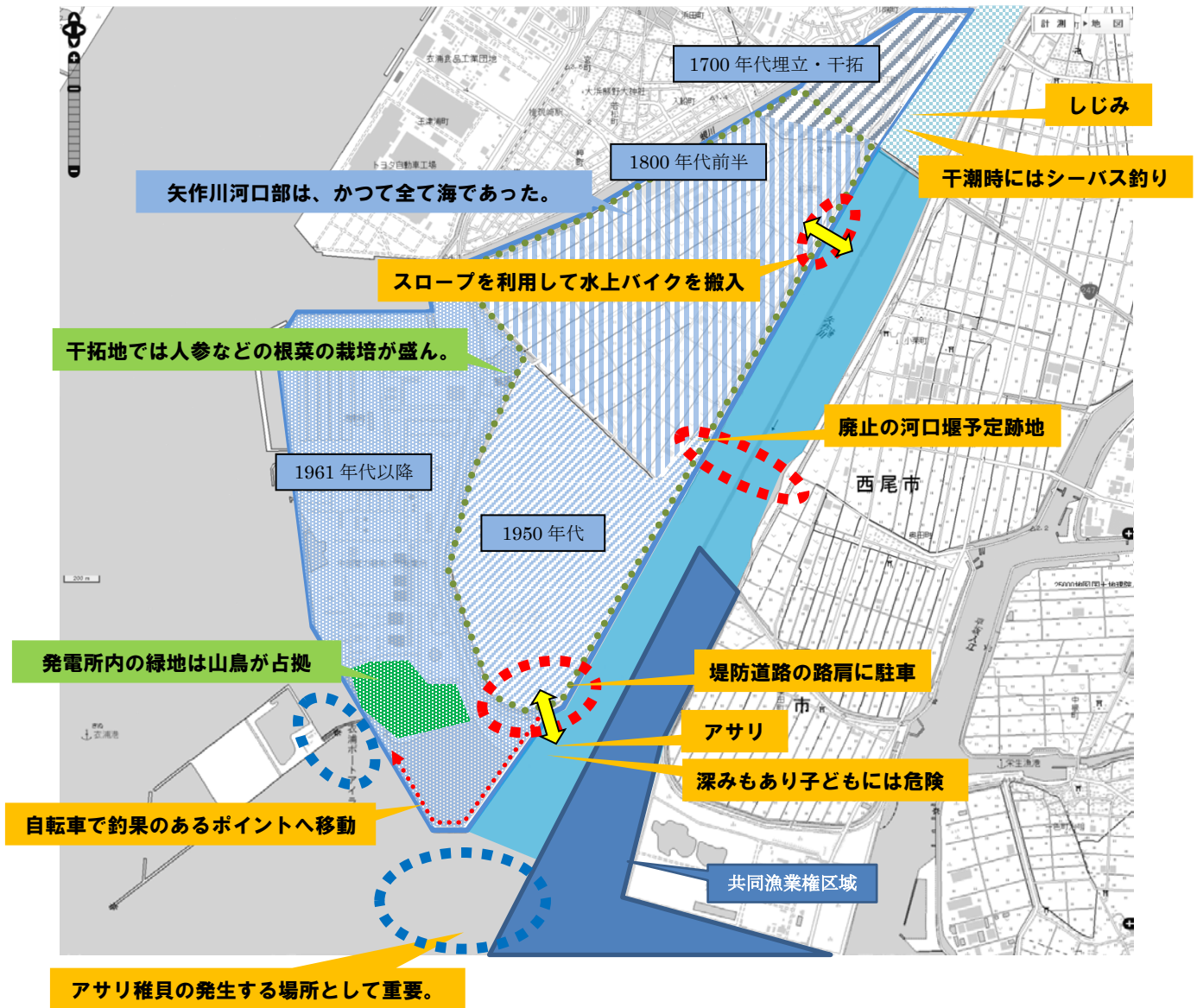


図. 調査地点①：矢作川河口部右岸（碧南市側）の調査結果

**【TOPIC】矢作川河口堰事業の廃止**

矢作川河口より上流 1.7km 地点に計画されていた矢作川河口堰事業は、昭和 46 年(1971)より実施計画調査に着手し、昭和 52 年(1977)には建設に関する基本計画が公示された。その後、愛知県が工業用水の利水参画を返上したことを踏まえ、平成 10 年(1998)8月の「矢作川河口堰建設事業審議委員会」において休止の答申を受け、平成 12 年(2000)11月に事業中止が決定され、平成 17 年(2005)5月に矢作川河口堰建設に関する基本計画は廃止された。(出典)：矢作川水系河川整備計画 中部地方整備局



調査地点②：矢作川河口部左岸（西尾市側）

- ・牽引車両ごと水上バイクの荷卸しができるスロープ周辺に多くの利用者が集まっている。
- ・水面利用は、ウィンドサーフィン、ウエイクボード、水上バイクなど様々な利用がされているが、遊ぶ範囲をすみ分け事故のないように工夫する様子が見られた。
- ・また、長時間の滞在を楽しめるように日蔭や水回りの準備は、折り畳み式のタープやバーベキューコンロ、ポリタンクなどを持ち込み対応していた。
- ・河川敷ではバーベキューは禁止されていない。また、利用者のマナーも良く、これまでにゴミなどの問題が大きく持ち上がったことはないとのこと。
- ・スロープから少し下流の芝張のエリアでは、ラジコン飛行機の滑走路として利用されている。
- ・0.0kから下流部は、一般車両の進入は禁止されているが、進入可能な自転車でサイクリングを楽しむ人も見られた。
- ・0.0k周辺では、階段で水際まで降りることができる。
- ・西尾市側は漁業権の設定があり、階段脇にはアサリ採取に関する注意書きがある。
- ・河川の後背地では、稲作や大豆等が生産されている。
- ・稲作と大豆は2年置きに作付けされており、乾湿を繰り返すことで田んぼの状態が続けば生育できる生き物が育たないため、それを捕食する鳥類もほとんど見られなくなったとのこと。





図. 調査地点②：矢作川河口部左岸（西尾市側）の調査結果



### 調査地点③：人工干潟（一色おさかな広場西側）

- ・おさかな広場の遊歩道は、朝の散歩に利用されている。
- ・おさかな広場には、広い駐車場や水場、トイレ、あずまや等が整備されており、子連れでも遊びやすい環境が整っているが、潮干狩りシーズン外のため漁協が干潟入口に網を張っており、干潟では遊ぶことができない。
- ・水面利用者や釣り客などは見られなかった。



### 調査地点④：一色衣崎海岸

- ・地元の小学生を対象とした干潟の観察会などの環境学習を5月の大潮時期に開催している。
- ・また、観察会の事前には、草刈り、ゴミ掃除、トイレのレンタルなどの準備を行っている。
- ・遠浅の干潟ではあるが、市内には環境の整った海水浴場が他にあり、ここは水遊びの場所としては選ばれることはあまりない。
- ・潮干狩りシーズン以外では、海鳥などの観察に来る人が割と多いポイントである。
- ・沖合の干潟には、ウミウやカモメなどが休んでいる姿を見ることができた。
- ・また、沿岸護岸ブロック上などでも渡り鳥の姿が見られた。
- ・水際を調査した際、県内ではあまり見られないサキグロツメタガイの貝殻を発見した。



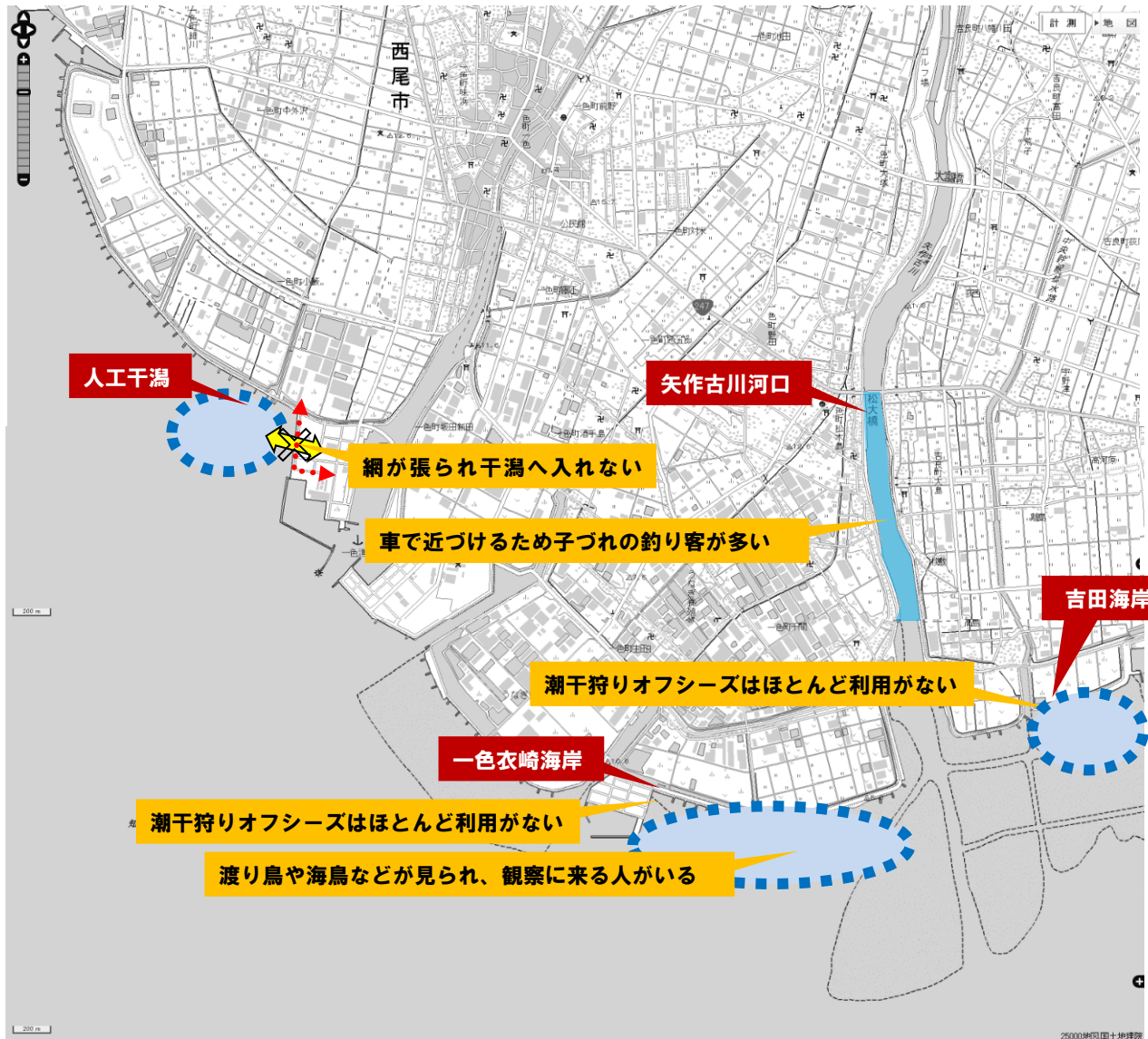


図. 調査地点③～⑤の調査結果

調査地点⑤：矢作古川河口部～吉田海岸

- ・車で水際までアクセスでき、釣り糸を垂らした簡単な釣りを楽しめるため、子づれでの利用が多く見られた。
- ・吉田海岸では、水面や水辺の利用が見られなかった。



矢作古川護岸進入口



古川河口部の利用（釣り）

## 調査地点⑥：吉良歴史民俗資料館

- ・かつて西尾市沿岸に多く存在した塩田の歴史を通じ、生業として市民との海との係わりが深かったことを学んだ。



## 調査地点⑦：吉良ワイキキビーチ

- ・海水浴場としても歴史ある観光地であり、山側にホテルが集積するエリアである。
- ・海水浴場として、サメ避けネットが設置されており利用者は安心して海水浴を楽しむことができる。
- ・サンライズパークでは、堤防上から釣りを楽しむ人も多く見られた。
- ・海水浴シーズンは、サンライズパーク駐車場が有料となるため、県道 316 号の山腹沿いに路上駐車が多くなることが分かった。



調査地点⑧：寺部海岸～東幡豆エリア

- ・沿岸部には住居の密集するエリアで狭小な道路を通る必要があり、自動車でのアクセスはしづらい。
- ・寺部海岸は、きれいな砂の入った人工海浜で海水浴場としての人気も高い。
- ・潮干狩りでの利用はされないとのこと。



調査地点⑨：東幡豆地区東浜

- ・漁港内では釣りを楽しむ人や東浜から水上バイクに乗り込み遊ぶ人達が多く見られた。





図. 調査地点⑥～⑨の調査結果



#### (4) 参加者の感想等

##### 1) 調査に参加して分かったこと

- ・沿岸部は道が込み入っており、道路事情が悪い。
- ・思っていたより水辺を利用する人が多かった。

##### 2) ○：良かったこと

- ・自分では行けない三河湾沿いを見て歩けた。
- ・いろいろな場所が見えてよかった。
- ・真夏の河口沿岸・海辺の現況（活動の現状）を見て体験して回ることが出来て良かった。

##### 3) △：今後の調査時における工夫（改善点等）

- ・各調査地点で地元の方によるより具体的な案内が欲しい。
- ・資料の充実や調査方法をより具体化したい。
- ・移動中のバス内での意見交換、活動紹介ができると良い。
- ・東幡豆地区の岩礁や砂浜など様々な特徴のある沿岸部を比較して見て回りたい。

以上